

TOKO NO.162

目次

1年生になったら 1

島田 睦 (松伏町)

つながりから一緒 3

就学・進路を考えるTOKO  
勉強・相談会

「特別支援学校と地域」

竹迫 和子

「ともに学ぶをふりかえり  
ともに働く・ともに生きるを  
みつめる」

猪瀬 佳子

今年(2011秋)の就学相談の結果は 8

伝えます 学校生活 9

もう中学生

藤ヶ谷 理江

中学生になりました

U. K

6年目の姿は想像できなかつた

太田 妃早子

迷惑をこえる関係ができた

松本 みゆき

支援級に通わせながらTOKOの活動に

清水 泰代

どの子ども地域の公立高校へ！

県教育局交渉から 10

障害児の高校進学を実現する全国交流集会プレ集会 14

寒ひろこ 16

郵送でお届けしている皆様へ

この情報誌がご不要の場合やホームページで見るので郵送しなくてもよいという場合は、お手数ですがメールか葉書等でお知らせいただければ幸いです。



9月8日、越谷市北部市民会館で開催された「就学・進路を考えるTOKO勉強・相談会」。珍しく和室で膝つき合わせて。(本誌3ページを「ご覧ください」)

1年生になったら

島田 睦 (松伏町)

今年の4月から、小学1年生になったダウン症の娘は、入学して毎日片道40分の登校、5時間授業、掃除、給食、休み時間など、学校での日常を送ることがすべて、苦労の連続でした。動作が他の子より2倍もの時間がかかるため、歩く、靴を履く、着替える、トイレに行く、ランドセルの中身を整理する、移動するなど、皆とは同じようには出来ず、マイペースに時間が進んでいました。毎日、「学校には行かない!」と言い続け、登校班での登校は、途中で止まってしまい座り込んでしまうことがほとんどで、まともに通えたのは、1日だけでした。それでも何とか、1学期を終えることが出来ました。

現在、通っている小学校は、全校生徒300人、学級数12、(1年生は、1クラス)、周りを田んぼに囲まれた歴史のある学校で、祖父、父親も通った学校です。

親の希望としては、将来、社会に出た時に困らないように、社会性を身に付けさせるためには、地元の学校の普通級で学はせるのが良いので

TOKO が初めてお手元に届いた方へ TOKO を初めて目にした方へ

子ども達を分け隔てなく育てるために どの子ども一緒に地域の学校へ通えるように  
地域へ、行政へ、働きかけている会です ぜひ、一度のぞきにきて下さい 待っています

はという思いがありました。

進学先が決まるまでには、対教育委員会、幼稚園、小学校、家族との話し合いや見学が、7~8回行われ、入学許可が下りたのは、2月の入学説明会の直前でした。入学するにあたり、教頭先生、校長先生から出された条件は、慣れるまで、担任の先生が良いと判断するまで、家族が登校から下校まで付き添うようにと、口頭で言われました。

同じ障害の子を持つお母さんから、入学当時は、親が付き添っていたということを聞いていたので、2週間位は、仕方がないかなと思って、仕事を休んで付き添っていました。ところが、2週間、3週間が過ぎても、一向に許可が下りなかったので、「もう慣れてきたようなので、付き添わなくて大丈夫ですか？」と聞いたところ、返答は、「(前)校長からは、普通級にいる1年間は、家族が付き添うと聞いています。今の状況では、大丈夫だとは言えません。」と言われてしまい愕然としてしまいました。

実際に担任の先生とは、4月の入学式の後に顔合わせをし、文書で、

- ・授業中は、教室の後ろの席に着席をする
- ・休み時間は、トイレの誘導と安全への配慮
- ・着替えが遅くて授業に間に合わない時には一緒に移動(体育館、校庭)する
- ・給食、掃除、下校時の見守り

等、提示をされていましたが、校長先生が4月から変わっていたため、前校長先生との口頭での話し合いの場には、同席していなかったことが、食い違いの原因だったようです。

それでも、納得がいけないまま、1ヶ月間の付き添いが続いていた頃、TOKOの会の活動を聞き、学校側の家族の付き添いの強要に関して、春日部市、越谷市に要望書を出し話し合いをしているということを知り、まさに一筋の光が見えた思いでした。越谷市の教育委員会との話し合いにも出席させて頂き、現状をお話し、もっと学校側と話し合いの場を持つことが必要だと助言を頂きました。

そして、その要望書を持って、新校長先生、教頭先生、担任の先生、家族との話し合いをしその結果、ようやく2ヶ月間の付き添いから解放されました。

新校長先生は、親の思いをととても良く理解して下さり、学校全体で、支えていくと言って頂きました。確かに、1クラス34人の1年生を1人の担任が見るというのは、容易なことではないと思います。付き添いがいなくなった後は、他の学年の先生からご協力を得て、見守って頂けるというので、今は安心してお任せしています。

娘の問題は、解決しましたが、とても気になっていることがあります。

支援級に通う子の家族もまた、1学期の間は付き添いをし、慣れた頃に学童に入れ、仕事に復帰しようとしたところ、その子とのコミュニケーションが難しいとの理由で、入所を断られました。現在は、家族の付き添いがあれば、入所が出来ると言う事になり、夏休み中も1日家族が付き添っていました。

本来、学童は、働く両親の代わりに預ける所なのに、矛盾しているなと思います。

障害がある子を持つ親は、その子が生まれた時から、様々な困難に立ち向かって来ていると思いますが、子どもを守るためには必要な努力なのか、与えられた宿命なのかなと考えさせられる毎日です。

## 実行委員募集！ 「障害児」の高校進学を実現する全国交流集会実行委員会

埼玉ではすでに71年、大西赤人さんが身体障害のために県立高校を不合格にされたことに対する運動があり、83年には全盲の浅井一美さんの県立高校受験に際し点字受験を認めさせるといった取組がありました。しかし、知的障害のために点数が取れない生徒の高校進学の取組は、87年猪瀬良太さんら3人の県立高校受験からスタートしました。高校は義務教育でないため、都道府県ごとに交渉が行われ、取組も多様ですが、みな「障害の有無にかかわらず希望者全員入学」をめざしています。各地の運動をつきあわせながら、公立高校を共に生きる社会への入り口にできるようにがんばりましょう。来年、埼玉に全国の仲間を招き交流するため力を貸して下さい。 問合せ：048-942-7543 (竹迫)

# ちがうから一緒



## 特別支援学校（養護学校）と地域

お話：竹迫 和子さん

こんにちは、今まで人前で話をしないで来ましたので緊張しています。今日は学校の話ということですが、わたしは資料の紹介に書いてあるように、養護学校、今は特別支援学校ですが、27年勤めました。早期退職といっても2年間だけ早いだけです。退職勧奨があって早くやめる人もいて、自分では早期とは思ってはいません。ほとんど定年退職的な年齢です。わたしは鹿児島出身で、大学が福岡でそこで5年ほど中学校の教員をして、退職し、その後再就職しようとしたときに、兄弟が東京にいて、こっちにきて就職したのが越谷養護学校で、それから27年経ちました。その間、養護学校だけでなく学校の状態が大きく変わってきたと感じています。

退職の一番大きい理由は、おばが亡くなったりして鹿児島と行き来することが多くなり、親は鹿児島で二人とも元気ですが今後は行き来がもっと多くなるだろうし、学校は労働条件は恵まれていて介護休暇も取れますが、なんとなく自分の中で気分が合わない面もあり、やめました。ひとつ気になっているのは、父親が軽い脳梗塞で入院しましたが、そのときに問題患者にされていました。どういうことかということ、脳梗塞も軽いし体が動くのでオムツをしてもトイレに行くものだと思っているので、柵を乗り越えていこうとして看護師さんに心配をかけたり、オムツをはずそうとして大きな声で怒鳴ることがあったようです。自分も生徒に対して大きな声で叱るが、向こうにもそれなりに理由があるんだと改めて思いました。食事ものを詰まらせてはいけないということで、ペースト状の食べ物になったり、入院患者が多くて手が足りないということで、歩かせる手伝いをする余裕が無くて車椅子になる、それがだんだん慣れてくると、もう歩けなくなったり食べられなくなったりするので、母親と話し、ショートステイやデイケアを使いながら家でできる限り過ごせるようにしました。でも、病院に行くときのタクシーも同じところを使っていると顔見知りになって、いろいろな手伝ってもらって、家族だけでやらなくてもいいかなと思います。

### ◆親たちの意識が変わってきた？

学校の中の様子がいぶ変わってきたということですが、一番印象的なのは最初に受け持った子供のお母さんから誰だって養護学校に来たくなかったと言われたことでした。重い車椅子で言葉も出なくて自傷行為があったというお子さんでしたが、「誰だって、こっちと言われて来たかったわけではない、でも行くところが無かったから」、というのを聞きました。それが始まりで、最初、越谷養護に勤めたときは、義務化から5年くらい経っていて、反対の動きの話も聞いていたので、養護学校はどうなのかと思いました。一番思ったのは、施設に入らないで暮らせるといい、障害がある人も無い人も一緒に家族、近所の人と過ごせるのがいいというのがまずありました。では施設に入らないで行くにはどうしたらいいか、学校は義務化に反対している人たちがいるがそれはどう考えたらいいのかと思って、近くにわらじの会があるから行って見たらどうかといわれたのが始まりです。

さて、誰だって来たくなかったと言われましたが、27年経つ中で変わってきました。「専門の障害児教育の学

校だからここを選んできた」とか、「就職のための指導をしてもらいたい」とか、本当はどうだかわからない、普通学校に行きたかったのかもしれないし本当に来たかったのかもしれないが、選んできている的なのが大きな変化です。自分でもその辺をどう考えたらいいかと思ってきています。以前は本当に来たかったのか、本当は中学校に行きたいというのがあれば協力したいと思っていましたが、養護学校の中で指導するという中にはまっていったのを感じます。学校全体も事務的な仕事が多く、パソコンを使って計画を作り、次の課題はどうか、子供の問題も授業のことも行事も、いろいろあって、しかも私たちの年齢は途中からパソコンが入ったので本当にそれに時間をとられています。それに会議、研修も多く、パソコンを使って書類を作るため職員室でパソコンを使っている時間がすごく多くなりました。だから授業の準備もちゃんとできなかつたり、何のために学校に来て仕事をしているのかそういう気持ちもすごく多くなってきています。

#### ◆能力別に細かく分けられるようになった

学校の中の様子についてですが、徹底した能力別というか、小中学校でも細かく段階に分けて指導していくのがあります。どのくらいできるかが問題にされています。養護学校の場合、特に個別指導が売りになっているので学習グループを分けるときにも5、6に細かく分けます。たとえば日付、物の名前の絵カードをやっている生徒から小6ぐらいの勉強をしているグループまで細かく分けています。最終的には進路を指導していくのがあり、それがどのくらいできるのかで就職なのか作業所なのか、指導の目安にもなります。学校によってはクラス編成もそれで分けられているところもあります。越谷養護はそうでした。その頃、せめてクラスだけでも一緒に子供同士で話かけたりできるようにという先生もいれば、それぞれのできることをできるように分けたほうがいいのか、クラス編成のころは散々議論してきたが、それすらもなくなり上からの指導で分けるようになりました。

知的障害の学校の場合はそこまでになっていなくて、クラスは学年を人数によって分けて編成していて、子供同士のかかわりができて、1年間たつと、一緒にやっていたりするところもありました。それで教科学習のほうはグループに分けて、週に2回、時間で言うと、2時間ぐらい続きで4コマぐらいしかなく、作業が中心になります。授業時間もないし、学習内容としては特学から来た親ごさんからは内容が簡単だとか、教科学習がちゃんとできていないとか、不満がありました。その代わり実習や作業、行事も多く、行事も練習時間を多くとって、発表する本番は上手だねとほめてもらえ、。そこで達成感、自身を持てることはあるが、それにかかる時間がものすごく多いのです。ちゃんとできない子供にとってはずっと続くので苦痛でしかありません。2学期の行事が多い時期には落ち着かない子供もいました。作業も4コマ、農作業やお裁縫、焼き物のグループがありますが、それを続けてやるので、内容によって子供によってはピタッとあう場合もあり、すごくそれぞれの特徴がうまく生きてくるものでもあるし、根気強くやることにもなりますが、将来の進路に向けてそれをがんばるのが学校だとなってしまうのがどうなのかと思えます。

#### ◆働くということ

ただ、みんな最初嫌がっていても仕事は好きだと思います。いろいろなことができるようになり、一見落ち着きが無いように見えても何かやるのは好きなんだと思えました。その辺から就職につなげていくということで実習があります。実習は校内で内職的な仕事をしたりすると、現場、会社や作業所に行ったりして、作業、仕事を体験するのがあります。それもかなり仕事ができそうかどうかで、作業所、企業と、その段階で分けられてしまうところがあります。

昔に比べると企業実習を体験的にやるところまでは来ています。進路開拓は新聞のチラシを見たりして、ずっと回ったりしています。本当に大変な仕事で中には倒れた人もいました。担任でもできることは手分けてやったりするが、実習も何回かやって何とかこぎつけます。それでも20パーセント、30パーセントぐらいの就職で、なかなか障害者枠というか、就労、給料が一人前になれる人は少ないし、期限付きだったりしています。家庭でフォローしてくれる人がいればいいが、人間関係でうまく溶け込めなかつたりすると段々休んでしまったりして、

周りで気が付いて会社に顔を出すと、逆に会社の人が家庭に連絡して相談する気持ちがあれば長く続くが、今不景気だと真っ先にリストラの対象にされてしまったりします。

就職では、何回クビになってもハローワークに通いつめて仕事に就いて、それでも慣れてくると、またクビになってということの繰り返しで、それでも働くものだと思っている人がいます。普通学校に行っていると学校を卒業したら働くものだという意識があるんだろうと思っています。昨年担当した生徒は何とかもっています。時々顔を出してその所長さんと話しますが、やっぱり遅刻していて、家でもちゃんと送り出してもらえないようで、それでもその社長さんがそういう働き方だと思ってくればそんなに簡単にやめさせられないし、一緒に働いているパートさんが面倒を見てくれています。1年前に比べるとできる仕事の数も違ってきています。学校の中の様子はそんな感じです。

#### ◆押しながら入って行かないと分けられる

最初に話しましたが、養護学校義務化が1979年、ちょうど九州で中学校に勤め始めたときで、福岡のほうでは同和教育などがかなり盛んで、差別ということに敏感なところがあり、小学校でも義務化に反対している人たちがいましたが、隣に養護学校もあり、自分の頭の中でわかっていないところもあり、ばらばらの状態でした。こっちに来て勤めるところが養護学校だとわかったときに、どうしていこうかと思い、猪瀬さんや山下さん、新座の木村さんが集まって話をした集会を聞きに行きました。そのとき、猪瀬良太君は中学校でした。高校に入る歳になって、高校にも行こうよと草加の中村さんと話しました。わたしの養護学校に中学校の1年生の子が来て、その後特別支援教育課に行った宇田川さんがどうせ高等部では入ってくるんだから今のうちに入れてもいいんじゃないかと言いました。私は少しでも地域の学校にいてほしいというのがあり、そのころに普通高校にという話があって、高校にも行ければと思ったのが始まりでした。猪瀬さんにはその話もしてもらいたいと思っていますが、やはり、養護学校に来るといえばどうぞというが、なかなか普通学級や就職にしてもどうぞというのは無いのが現実です。どこかで押しながらやっていかなければいけない、いろいろ工夫していけばやっていけます。何よりも開いていく、かわりを作っていくことをしていかないと、孤立していきます。だからそうならないように入っていくしかないの、来るなどいわれれば入っていくぐらいの気持ちでやっていったほうがいいし、そこで新しいかわりができてくると楽しいと思います。だから高校も一緒に入っていけるといいなと思ってやってきています。そこについては資料に載っているので読んでください。

#### ◆いろいろな状況はあるがそこから高校にも挑戦を

いろんなことがあり、野島さんは実際に生活をしている人なので参考になり、それを養護学校の生徒に教えたり、それで養護学校の先生がオエヴィスの介助に入ったりした人もいました。それで先生がすき焼きの肉を小さく切っていたら、本田さんがそれじゃすき焼きじゃない、味がぜんぜん違ってくると言い、それで大きい肉を食べられるようになったとか、両方でいろいろ学ぶところがありました。

今一番気になったのは、この前野島さんと県障害者施策推進協議会という障害者プランを作る会議に行ったときに、親の会の人たちで入所施設待機が700人とか800人とかいると言っていて、でも親も本人も年を取って、というのではなく今学校に行っている親からの話でした。入所施設に入らないでとか、せめて学校にいる間とは思っていたので、その話を聞いたときにはすごくショックでした。関係を狭めないようにとか、専門家に相談して解決することもあると思うが、親子で向き合ってやっていくしかないということがあります。焦らないで、すぐ入所施設ということではなくいろいろやってほしいし、大変なときには助けてくれと周りの人を巻き込むとか、最初は本当に大変でもそこを過ぎると落ち着いてくるという話を聞いてもらいながら、子供の世界を狭めないで広げていってほしいと思います。

普通学級では勉強がわからないと思われがちですが、子供が40人いる中で学びの材料も多く、子供も学んでいます。今中学校のお子さんで高校も受験したいが、言葉も出ないお子さんがいます。でも養護学校には行きたくないとはっきり言っていて、以前入院したときに一時的に養護学校に籍を置いたが、グループ分けしたら障害

が重いのでコミュニケーションがほとんど取れないグループになり、つまらなかったから行きたくないということのようでした。その話を聞いたときにわからないだろうと養護学校で分けていることは、わかっているかどうか本当のところはわからないから、本人が言わなければわからないんだと思って分けてきたんだということと、みんなで一緒にいると面白いし、その中で学んでいることがすごくあるんだと思いました。

いろいろな状況はあるけれど、そこから広げていけるといいなと思います。ぜひ高校に行ってください。特別支援学級や特別支援学校は人数が増えていますが、特別支援学校から高校に行った生徒の数も増えているので、それぞれのところから高校にも挑戦してください。以上です。

## ともに学ぶをふりかえり

### ともに働く・ともに生きるをみつめる

お話： 猪瀬 佳子さん



こんにちは、猪瀬です。この前のわらじの合宿に参加した人は、うちの息子もこのところ一人で参加しているので出会ったかもしれません。アラフォーで40に手が届く歳になったので、昔を知っている人は何も起こさなくなったと思うでしょう。そんな歳なので、学校のことといっても過去の遺物で細かいことを忘れてるので、参考になることがあるのか、今日は竹迫さんのおまけのつもりで来ました。

私は一人っ子なので子供がたくさんほしいと思っていました。彼が最初にできた子供で、おなかにいるときに浦和に越してきました。私は転勤族のうちだったので、浦和は今までで一番長く住んだ町です。若くしての初めての子供で、生まれてこんなものだろうという感じでいました。仕事をしていたので、産休が6週間あったので、1月末に生まれて3月末には保育園に預けて仕事に復帰しました。ずっと保育園に預けっぱなしで、1年ぐらい経って保育園の先生に「ちょっと違うんじゃない」と言われました。4人の子育てをした義理の母にも同じようなことを言われていましたが、気にしていなかったのが、最初に気づかせてもらったのが保育園の先生です。たぶん仕事をしていなかったらもっと長く気づかなかったかもしれません。

#### ◆私にとっての専門性・訓練

2歳児のクラスの時に、そのころ埼玉県でさくらんぼ保育園という障害のある子供の有名な保育園があって、そこに行ったほうがいいと言われましたが、一緒に役員をしていたお母さんたちが先生との話し合いの中で味方をしてくれて、ここにいてもいいが訓練をしたほうがいいのでは、ということになりました。保育園の子供の親の中で大学の先生がいて、自閉症の研究をしている先生がいるから、その先生の講座を聞きに入ったらいいという話をしてくれました。そのころ、自閉症児は親の育て方が悪いとか、冷たい親が育てると自閉になるとか、テレビを見せないといいとかそういうのが巷にあふれていて、何でも受け入れようと、私は仕事をやめました。3ヶ月間子供と向き合って、全部やってみましたが、最後になんか馬鹿馬鹿しくなってやめました。

最後に埼玉大学の先生がいるからと勧められました。私は小学校の教師をやっていたのをやめました。これから養護学校の教員の免許を取ろうと、それから1年間自閉症の研究をしている先生の授業を受けたんです。一方で養護学校の教員の科目も取っていたんですが、そっちは8時半からの発達保障の授業を取らないと資格が取

就学・進路を考える TOKO勉強・相談会

れなくて、半年ぐらい聞いていましたが、朝早いということもあり、最終的に取らなかったのでもうすでに養護学校の資格は取れていません。自閉症の授業を受けたことはよかったです。私は専門性や訓練を否定していない、むしろやるべきだと思っています。その先生は専門家が子供の療育をやるが、ずっとではなく親が専門家のやり方を覚え、自分の子供に合わせてやるという話で、うん、そうだと思います。

### ◆いる場所によって周りの見方が変わる

一方、浦和市の障害福祉課の入学前の療育グループもあり、そこに通って障害を持つお母さんたちとのつながりもできてきました。そこのお母さんたちとやっぱり普通学級に入ったほうがいよねという話をして、私が受けていた療育関係の授業の先生を呼んで勉強会をしようとか、親の集まりができていきました。ペンギン村の前に、たんぼぼという親の集まりの母体が入学前にできました。そこには養護学校や特殊に行っただけのお母さんもいましたが、大体中心の人はみんな普通学級に入って行き、そこでのいろいろや家族ぐるみの付き合いが続いていきました。

わたしは5人子供がほしかったのですが、彼の下に6歳違いで弟と妹がいて、ちょうど小学校に入るときに弟が生まれて、呼び出されても子供が小さいからと、兄弟を口実に使っていました。小学校に入るにあたり、1月生まれで小さかったから1年遅らせようかという話は父親としましたが、養護学校に行かせようということは意識の中になく、地域の普通の学校に入りました。そこでは、竹迫さんがいろいろあるけれど楽しいと言っていたように、いろいろありました。

さっきもいったように専門教育、訓練を否定していないので、浦和では情緒学級を作って通級制の学級があったので、そこにも通わせつつ普通学級に行くという形で、中学のときも情緒学級に通ったりはしていました。小学校のときに情緒学級の担任が、できるようにするだけでなく社会生活をする上で目立たないようにというおかしさが、あまり普通の中に入れて目立たない、服装にしても普通に作る、大きくなってもスプーンで食べるのではなく年相応に箸を使って食べるとか、そういうことがこれから生活していく上で生活しやすいという方針だったので、ずっとそれでやってきました。うちの子供が通っている小学校には特殊学級が併設されていて、息子の友達が特殊学級にいるのは馬鹿な子で、良太は同じみたいだけど普通学級にいるので「馬鹿みたいな子」だと言ったことがあります。だからいる場所によって規定されてしまう、特殊学級にいる子供のほうがいろいろなことができる子もいましたが、こっちは馬鹿みたいな子供だとなります。浦和養護学校ができるときに校舎ができるまでうちの小学校に同居していました。廊下なんかで養護学校の先生がうちの子供に会うと名前を聞いたりして試し、それで養護学校の子供のほうができるのになぜこの子はここにいるのと思ったようでした。場所によって周りから見る目が規定される、だから本当に普通にいたほうがいいんだと思います。

### ◆「働きながら学ぶ」から「学びながら旅する」へ

うちは下に弟と妹がいるので、同じ学校に行ってもおかしくないような場所を選びたいと思ったので、中学校も普通。高校も行かせようとは思っていましたが、全日制とは思ってなくて、中学の近くに浦和商业という定時制があり、校門に働きながら学ぼうと大きく書いてあったので、そこに行かせて昼間は職業訓練校に行かせようと甘く考えていました。それが甘かったのは後ですごくわかったのですが、そんな感じでやってきました。それで、何で高校に行くかという、周りの子供たちが普通に行くし、中学の隣が高校だったので、ここだったら一人で通えるからと思ったのですが、受験さえも受けさせてもらえないような状況でした。それでそこには入れず、蕨高校など何とか地元の高校にと転々と受験してきましたが、とうとう弟が受験する年になってしまって、弟よりも下の学年になるのはいやだという親の思いがあって、吉川高校に既に何人も入っていて、そこなら入れるんじゃないかと4月になって3次募集か何かで受験しました。そこでも話し合いをしましたが何とか入って4年間通いました。

遠かったし、うちの子供はおとなしくなっていました。野島さんが横浜に一人で泊まりに行ったと同じように、24時間ずっと親の目があると一人でいなくなってしまう。野島さんのように行って帰ってくるとい

いんですけど、そういうことはしてくれない。お金がなくなると交番に飛び込むという人もいるが、そういうこともしてくれません。中学から帰る途中に、そのままうちの前を通り過ぎて駅に行ってしまったりする。迎えに行くのはいやだったので、団地の上から帰ってきたのを見ていると通り過ぎて行く。担任の先生がどういうルートを使うか後をつけてみたことがあって、電車に乗ったが、肩掛けかばんをぱっと網棚に載せてしまい、先生があわてている間にいなくなってしまったとかもありました。そういう動きの激しい子供でした。大人になった子供のお母さんから30過ぎれば落ち着くからと言われて、うそでしょうと思っていましたが、やっぱり35過ぎるとだいぶ落ち着いてきました。だから小さいお子さんで多動で困っているお母さんには、落ち着くから20年の辛抱だとすごく言いたいです。でもたまには野島さんみたいに一人になりたいときもあるみたいで、2週間前にはちょっと伊東まで一人で出かけてきましたけれど。だから小中は地域の中でと言えます。

### ◆いじめられる幸せも経験　そしてこれから

義務教育は勉強だけでなくいろいろなことがあります。障害のある人が作った詩で教師にいじめられたというのがありましたが、うちの子供は教師だけでなく同級生にもいじめられました。同じ年頃の子供にいじめられる経験、その幸せを経験して大きくなっていくのがいいんだろーと思います。傍で見ていると親は耐えられないというのはありましたが、私がもう学校に行かなくてもいいと言っても制服を着て行ったので、どう思っていたのかはわからないが、そういう意味ではたくましくなったと思います。いじめられるから行かなくていいと親が抑えていたらまた違ったことになったと思います。

普通学級に行ったから高校を卒業した後に地域の中で溶け込めて就職もできたかという、そうではないので、「共に働く」は見つめるだけだし、「共に生きる」のもこれから。普通学級を出たからといって、うちの子供はコミュニケーションが取れないので。ただ、いまだに小学校区にいたので、浦和のお祭りのときに良太君と声をかけてくれる人がいたりします。まあ今の40歳近くの人で実家に住んでいる人はほとんどいないので、小学校のころの人が住んでいないから、一緒に地域で暮らす人はまた作っていかねばいけなくて、一緒に高校を出て、こんなに地域で生きている、と示せないのは申し訳ないが、まあそんなものです。何もかもうまくいくという事は無いので。



## 今年(2011秋)の就学相談の結果は



この9月の勉強・相談会と10月14日に行った就学相談会、および10月9日のわらじ大バザー会場に設けたTOKO・職場参加をすすめる会合同ブースでの相談を合わせて、7人の方からのご相談がありました。

うち1件は電話のみ。あとはすべて直接おいでいただいて、お話をしました。

相談者の方々の住所は、春日部市(2人)、越谷市(2人)、さいたま市(1人)、川口市(1人)、宮代町(1人)でした。

障害のあるお子さんの年齢層は、就学前が4人、小学生が2人、中学生が1人でした。

障害の状況は、自閉症・広汎性発達障害が多く、身体と知的の重複障害もありました。

直接おいでいただいた方々からは、すでに地域で学校生活を送っている親子の話や大人になった障害者の暮らし、そして長年特別支援学校、支援学級や通常学級で働いてきた教員の話聞いて、ほっとしたという感想が多く聞かれました。

とはいえ、学校・地域の現実を見ると、障害のあるなしにかかわらず、人と人の距離が遠くなり、いつの間にか分けたり、分けられたりという空気にまきこまれ、迷いや不安はどこまでも付いて回ります。だからこそ、生活に根ざした情報や意見がとても大切。毎月のミニおしゃべり会への参加をお勧めしました。

就学相談会を告知して下さった朝日新聞ほかの皆さんのご協力に感謝します。







### もう中学生

藤ヶ谷 理江

もう中学生になってしまいました。ついこの間、TOKOの原稿で小学校入学のことを書いたばかりだと思っていたのに……！

勢いで普通学級に行ったもののどうなることやらと心配していましたが、中学校は思いのほか受け入れ体制ができていて、ちょっとびっくりしました。担任は面倒見のいい男性教員になり、副担任は美術部の顧問の女性教員です（郁美は美術部です）。なんとかなるかな…と甘い考えで、2学期まで来てしまいました。とはいうものの、毎日心配の日々です。

一番の心配は、郁美のかたまりぐせです。中学は教室移動が多いので、これはいやがられるだろうなァと。するとやっぱりさすがの担任もこれには手を焼いたようで、すぐ支援員がつかまりました。「1学年支援員」（ちなみに3学年支援員もいます）ということですが、郁美の学年は比較的落ち着いているということもあり、今のところですが、よく郁美についてくれているようです。

小学校の時と違い、生徒たちはクラス単位で行動するよりも、個々に活動することが多くなります。小学校の時は、お友だちとの関わりがギクシャクするので、あまり支援員がべったりなのは困ると思い、「つかなくて結構です」と言ってきましたが、中学校の実情を考えると、中学校では支援員がついてくれるだけありがたいかな…というのが本音です。

もう一つの心配はトイレ問題です。相変わらずの便秘症で、ため出しタイプなので（汚い話ですいません…）、いつ失敗するかとヒヤヒヤものでしたが、やっぱり…やっしまいました。

9月半ばに宿泊学習がありました。付き添いは、「お母さんが心配でしたらどうぞ」くらいだったので、一泊だし、イベントも全体行動だし、大丈夫だろう…と思い、付き添いなしでチャレンジさせてみました。でも案の定でした…。

まずお風呂でのかたまり。ずうーとかたまり続け、結局入れずじまいだったそうです。これだけでも困りものですが、さらに次の日、みんながカレーを作っている間に、トイレでやってくれました。

行くときはお友だちといっしょに行ったようです。でも、ため出しだったんでしょう。長くなり、一人残されてしまいました。20分たっても戻って来ないので、副担任が心配してトイレに行ってみると、なんと！郁美は自分で下着を洗っていたのだそうです。たぶんちょっと失敗しちゃったんでしょう。副担任は感心したように、「えらいですねえ。」と前向きな意見でフォローしてくれました。しかし、担任からは、生活ノート（多くの中学で使用されている連絡ノート+ひと言日記帳のようなもの）に、「大人の手が足りなかったと思います」と書いてありました。「私に付き添ってほしかった」ということでしょうか。まあ、たしかに先生の立場だったら、そう思うでしょうね…。

でも私は想像するのです。郁美は誰もいない慣れないトイレで、汚してしまった下着を見て、何を思ったのでしょうか。たぶん、そういう時いつも怒りながら下着を洗っているママの姿を思い浮かべたでしょう。しまったーと思ったでしょうね。それでも泣いたり、それこそかたまったりせず、そのまま履くこともせず、脱いで洗っていたのかと思うと、笑えるような……泣けるような……ずいぶん成長したなァとしみじみしてしまいました。

もし、私が付き添っていたら、何も問題は起こらず、宿泊学習楽しかったね、で終わっていたらと思うます。お風呂に入らないことはなかったと思うし、下着を汚すこともなかったらと思う。

でもそうすると、本当は入りたいのにタイミングを逃してお風呂に入れなかった自業自得な気分も味わえなかったらと思うし、「汚れた下着は洗うぞ」というまっとうな考えにもなれなかったわけで…。やっぱり付き添いがいなかったからこそ、自分なりの問題解決方法を郁美が学習してきているのではないかと思うのです。今回は、いい勉強をさせてもらいました、という気持ちです。

とはいうものの、先生方には、ご迷惑やらお手数やらおかけしてしまっているワケで…。「お世話になっております。ありがとうございます。」と挨拶している毎日です。

中学校は歩いて30分近くかかります。途中、変則五差路の交差点や、踏切なども渡り、くねくね曲がる道で、ちょっと危険な通学路です。でも、お友だちや近所の人たちと挨拶したり、話をしながらの楽しい通学路でもあります。これからもがんばって、二人で歩いて行くつもりです。



## 伝えます 学校生活

中学生になりました

春日部市 U・K

4才の時、広汎性発達障害と言われた二女。今年、地元の中学に入学しました。思えば幼稚園に入園したての頃は、集団行動から外れ、1人園庭にいたり、廊下で昼寝していたりしていました。

それが、今では“皆と同じように行動したい”“皆とうまく関わりたい”という気持ちが年々強くなっています。「口が軽いと嫌われるよね…」とか「先パイに敬語使わないと怒られるんだよね…」と日々、コミュニケーションの学習中。自分の欠けた所を意識して治そうと努力するようになった事はすごい成果だと思います。“臨機応変に機転のきく言動が苦手”、“KYで自分の興味のあることばかり聞く”“集中して人の話を聞くのが苦手”“あいまいな表現の理解が苦手”など、主にコミュニケーション力のハンデなので、見た目に分かりにくい。なので、周囲からは「何か変？」みたいに思われます。

小学校の頃は、小さいトラブルはあるものの大きなイジメはなく、さける子もいたけど、それなりに一緒にいてくれる子もいて無事過ごしました。計算や漢字なども小学校はくり返し教えてくれるので、かなり身についたと思います。療育機関の個別指導は、あまり役に立ちませんでした…。

一人で下校できますが、帰りは途中まで迎えに行き、級友の話を聞いたり、学校での様子をアンテナをたてるようにしました。大きなトラブルに発展しそうな時は、担任に相談しました。色々なことを経験して、集団の中で上手く適応していくすべを少しずつ覚えてきました。この力が今後につながると思います。

そして中学入学。中学は教科担任制。部活も先生が常時いるわけではない。色々な面でアバウト。先生が目がない分気がゆるむのか、そういう年頃なのか、仲間はずれにされたり、文句を言われたり、つらい思いを何回かしました…。2つ上の姉から今時女子の生態？は聞いていたので覚悟はしていましたが…。泣いている娘をみると辛いです…。小学校は担任だけの相談ですみましたが、中学では、担任、部活の先生、教頭先生と3者に相談しました。とにかく“お願い”する形で話し合い、気をかけて頂くようにしました。

ハンデが“ある”“ない”関係なく、中学生になると色々な問題を抱えている子がたくさんいるようです。クラスになじめず、相談室や支援教室に通う子もいるみたいです。「勉強が苦手～ムリ～」という子も増えます。“障害”ではなく“個性”と受けとめて、どんな子も受け入れられる学校、社会であってほしいと思います。

### どの子も地域の公立高校へ！

#### 県教育局交渉から

一月二日(水)に県高校教育指導課はじめ五つの課が参加して、連絡会と交渉しました。

#### 積み上げられてきたこと

二三年間の交渉の結果、障害のある生徒の受験上の配慮措置、措置願提出者に一定の加点、定員割れの場合不合格者を出さないように努めること、入学後の施設・設備の整備、その後の学習や生活に関する個別の配慮などについて、県としてそれなりの対応がなされてきました。

#### 競争・選別・階層化が強められて

ただ受験競争は前にもまして激化し、高校ピラミッドは強化されています。現場の教員が、障害のある生徒は特別支援学校と考えても不思議はありません。これまで県との間で確認されてきた事項を現場の隅々まで徹底させることもあわせ、県として公立高校を希望する県民の子どもたち全員が共に学べる場としてゆく基本原則を確立するよう求めている段階です。

#### いま焦点になっていること

募集人員は何のために定められているのか、希望する生徒を全員受け止めるためではないのか？義務教育段階の就学指導で、別の学級・学校が適切とされたが通常学級に学んでいる子が県内に三千人いることも考慮すべきではないか？受験上の配慮をしても不利益が残る(重い障害の)生徒について、どう受け止めて行くのか？不登校や帰国子女のように特別選抜の枠として考えるべきではないか？など。高校を共に学ぶ場に行かないことは、地域社会の土台を変えて行く一歩です。



## 6年目の姿は想像できなかった

太田 妃早子(越谷市)

息子はダウン症で小学校 6 年生、普通級に通っています。就学前は毎日、毎日この子にとってどこの小学校に入学させるのが一番良いのか、普通級が良いのか支援学級が良いのかすごく悩みました。最終的には健常の子の中でみんなと一緒に同じ様という親の考えと、それまで息子が過ごしてきた保育所でのお友達との関わりを見て、「普通級に入れよう!!」と決めました。

保育所ではみんなと共に過ごし、毎日のようにビックリする事ばかり。すごい成長ぶりでした。お友達との関わりってすごいなあ、お友達の力ってすごい!って思いました。

でも小学校には勉強があります。授業をキチンと受けられるかどうか不安でしたが、息子にはそれよりも集団生活の中でお友達とのやり取りの中でしか学べない事やルールや人間関係などを学び身につけて欲しいと思いました。将来や社会に出てからを考えるとそれはとても大切だと思ったからです。

入学してからは全て先生にお任せし、周りの子に助けてもらいながら、他の子と同じ様にやってきました。色々な失敗や怒られるようなこともしばしばありましたが何とか乗り越えて、泣いたり笑ったりして、毎日元気に通ってあっという間に6年生です。正直6年目のこんなに成長した姿は想像していませんでした。

1年生、すべてが初めての事ばかり。心配した勉強も45分間きちんと自分の席に座り授業を聞くことができ、自分なりに黒板の文字をノートに写していました。書くことが好きなので漢字練習の宿題はきちんとやり、だいぶ覚える事ができました。

4年生からは私も送り迎えをやめ、登校は妹と一緒に、下校は初めの頃はお友達と・・・慣れてくると教室でお友達と遊んで少し遅くなくても1人で帰って来るようになりました。

クラブ活動ではコンピュータークラブに入り、私よりもパソコンを使えるかも?

5年生の時は2泊の自然教室。絶対に無理だと思っていた安達太良山にも、みんなと一緒に登頂!途中雪も残る山道を先生や友達に助けてもらいながらの山登りでした。帰りには家族それぞれにお土産を買って帰って来ました。

6年生では日光への修学旅行。バスの中ではみんなで AKB を歌い、ハイキングでは疲れてダラダラと歩き出した息子の手をグループのお友達が交代で手を引いて歩いてくれたそうです。夜はまくら投げ大会で大盛り上がり。とっても楽しかったようです。お土産もまたまたいっぱい買ってきてくれました。

今まであったすべての行事・・・毎年徒歩で行く遠足・運動会・持久走大会・校外学習・書初め競書会などなど、たくさんの行事にもみんなと同じに参加してきました。それも、本人の頑張りも勿論ですが先生方とお友達の手助けがあったからだ感謝の気持ちでいっぱいです。

初めの頃は「何この子・・・変?」って目で遠めに見ていた子供たちも、今ではみんな息子を理解し、時には手を貸し、間違ったことをしたときには注意や指導をしてくれる良き仲間。一緒にいる事が普通・当たり前になっていきます。

小学校生活は息子にとって大変でつらい事もたくさんあったと思います。その中で学んだ事・身に付けた事はとても大きく、大事なものだと思います。これからも良い友達を作り、色々なことを学んでくれれば良いなあと思っています。

## 伝えます 学校生活



迷惑をこえる関係ができた そしていま

松本みゆき(越谷市)

越谷市平方小学校6年生、通常学級にいます。息子はダウン症をもっていますが、保育園に4年間、小学校を6年間、健常児と一緒に過ごしてきました。息子はとても発達が遅いので、小学校低学年のうちは周りの子から「わたちゃんかわいい」なんて言われみんなから可愛がられていました。中学年になると、自我がめばえ、少々扱いにくくなってきました。クラスの元気な男の子に憧れて、悪さばかりしていました。高学年のいまでは、イタズラも落ち着き、クラスの中でも「あれ？わたるはどこ？」と思うほど、みんなの中に溶け込んでいます。お友達ともいい距離感ですし、担任以外の先生とも、雑談できるほどになりました。

この6年間、色んな事がありました。お友達をたたいて泣かしてしまったり、物をかくしたり、壊してしまったり、教室からいなくなって校内放送をかけられたこともありました。学校からの電話が鳴るたび、親として申し訳ない気持ちでいっぱいになります。特に、相手のお宅に謝罪の電話をする時は、とても気が重いです。

5年生の時に、クラスメートのメガネを歪ませてしまったことがありました。連絡帳では「わたるくんも謝ってくれたので大丈夫です」とありましたが、わたるに改めて聞いてみると、だんまりで「お友達になにしたの？」「〇〇さんに何したの？」「ぶったの？」「けたの？」と色々聞き方を変えていくと、首を振って答えるものの言葉には出さず、でもここは何とか自分の言葉で言ってほしいと私も粘りました。かなり時間がかかりましたが、「〇〇さんのメガネ落っこした」と自分の言葉で言うことができました。(ほんとは投げたんですけどね・・・)

説教は早々に切り上げ、相手のお母さんに電話したところ、「大丈夫ですよ～」とっていただき、更に「機会があれば話そうと思ってたんです」と、学校での娘さんとのエピソードを教えてくださいました。

〇〇さんに虫刺され跡があった時に、わたるが薬をぬってくれたこと。

〇〇さんの水筒が空になった時に、自分の水筒を半分分けてくれたこと。

〇〇さんが名札を忘れた時に、「明日は忘れないからガムテープしないであげて」と先生に頼んでくれたこと。(忘れるとガムテープに名前を書いて1日貼るんだそうです)

「すごく嬉しかったと言っていましたよ！わたるくん、ちゃんと優しい男の子に育ってますよ」と言ってくださり、電話口で思わず「ありがとうございます」と泣いてしまいました。しょっちゅう迷惑をかけてしまっているにもかかわらず わたるのいいところを探してくれるお友達、そして教えてくれた親御さんに感謝感激しました。

いまは、修学旅行の準備が進んでいます。グループ別行動には、担任の先生が付き添う形になりそうです。グループのメンバーには、わたると相性が良いお友達を入れてくれたので、楽しく過ごせるかと思います。部屋決めも 友達に声をかけられると わたるも「いいよ！」と言って あっさり決まったそうです。

学習では支援の先生が声かけをよくしてくださるので集中して取り組んでいるようです。支援員がいない日も自分で課題に取り組み、担任の所へ持っていくという流れができてきました。

中学進学先に悩みに悩んでいます。保育園や小学校では、お友達と一緒にいる時間を何より大切にしてきました。そのおかげで、学校以外でも地域で生き生きと生活してこれたのだと思っています。

お友達と離れてしまうのはとても辛いのですが、支援のある学校をと考えています。ただ この六年間の繋がりが途切れないように(特に本人は日々の生活で小学校生活のことを忘れてしまいそうな気がする)どうしたら繋がりを維持することができるのか、今はそれを考えています。



## 支援級に通わせながら TOKOの活動に

清水 泰代(越谷市)

我が家の二男、快人は小学校6年生。先月28、29日に修学旅行に行ってきました。去年から、6年生になったら修学旅行と何度も何度も確認していました。それは、早く行きたい、楽しみという言葉表現しています。私も何度聞かれても、もうすぐだね、早く行きたいね、楽しみだねと繰り返し答えていました。(やがて、彼が自分の気持ちも言葉で言えるようにと願っての言葉がけです。)言葉で表現できないこんな調子ですから、どこへ行くのか?誰と一緒にの班になったか等、わかるはずもない。とにかく、みんなと一緒にいけることがただ楽しみなのでした。いまだに、春日部の祖父母の家に泊まることを嫌がるのに、学校のお友達と一緒に旅行は楽しいなんて、随分成長したなと感じます。

親の私も、何の不安なく送り出せる。それは、5年間一緒のお友達、先生が快人を支えてくれているから安心できるのだと思う。快人にかかわるすべての人に感謝です。

TOKOとの出会いは、8年くらいになるかと思います。2才を過ぎて言葉が増えないことに不安を覚え、その後の3才児健診で発達の遅れがあると疑われ、早めに集団の入れることをすすめられた。急遽、兄が通っていたあゆみ幼稚園の年少に入園。そこで先輩ママにおしゃべり会に誘われ参加しました。その中で、障害が重いとか、軽いとかじゃなくてみんな地域の小学校に行くことが出来るというお話は、衝撃的でした。それまでは、障害児=支援級、支援学校しかいけないものと思っていた。兄弟と一緒に地域の学校に行きたい!そのあたりまえの思いで普通級の入学を希望しました。入学決定までは、たくさん悩み、相談しました。教育委員の就学相談では、知能テストの結果をもとに判定されました。

また悩み、TOKOのおしゃべり会で白倉さんが、一度きりの人生の中で、義務教育は9年間その後の人生のほうがいいとつともなく長い、みんなと一緒に地域の学校に行くのよ!と常に常に私たちに言うてくださいました。その言葉に背中を押され、普通学級に入学することを決意しました。気持ちが決まってしまうと、回りから何をいわれても動じることなく、いかにして貫くかしかなかった。就学相談の説得にも耳を貸さず、知能テストの結果が養護判定でも普通学級に行きます。ときっぱりいきり希望通りの地域の普通学級への入学が決定しました。その頃、着席が出来ないと普通級は無理みたいと言われて、着席を身につけさせようと療育に必死になっていました。何かしないといても立ってもいられなかったのだと思います。しかし、その努力もむなしく入学しても着席できず、声をだしたり、トイレ、水道の水をいたずらしたりと問題行動がたくさんありました。今になってみれば、大人を試していたのかもしれないと思えるのですが・・・迷惑をかけられない、問題ばかりおこす息子に親の付き添いは避けられなかった。覚悟はしていたけど、学校の対応は覚悟していた以上にシビアなもので、問題のたびに話し合いの連続でした。

親の付き添いにも限界を感じ、支援員さんをつけていただけるようお願いもしました。

支援員さんがついてからは、親が付き添うことは、だいぶ少なくなりました。そこで、学校には一切行きませんくらい思い切り身を引いてしまえばよかったのですが、まだ問題、心配が尽きることはなく、呼び出されれば付き添うことをくりかえしてしていました。

支援員の先生は、とても熱心で個別指導をしてくださいました。なんのために、普通級に行っているのか?がだんだんわからなくなりました。個別指導ではなくみんなと一緒に教室にいただけでいいとお願いしても、何もすることがなくかわいそうと熱心に個別指導を続けてくださいました。そして、支援級へ移ることを毎日説得されるようになりました。

一年間の中でたくさんの交渉ごとがあり、大勢の中の一人の孤独感、ここにいるべきではないといわれ、間違ったことをしているのでは?とまた悩みました。明るい兆しが見えない状況に親の私がたえきれなくなり、2年生から支援級へ転校することになりました。

支援級では、支援体制について話し合うこと、親が付き添うことは一切なく担任の先生が全て引き受けてくださいます。いろいろな問題行動もなくなり落ち着いて授業に参加しています。親学級(普通級)への交流に1日3~4時間だしてもらっています。(2~6年の5年間の中で少しずつ増えていったこと)学校全体で支援級の子供たちを受け止めてくれているので、これだけ頻繁に交流させてもらっています。どの学校でもそうかといったら、担任の先生、学校によって対応は、様々なようです。

支援級にいながら、TOKOの活動に携わるのは、両方経験した私だから見えること、わかることがあるかもしれないという思いと、苦しんでる人が少しでも前へ進めるお手伝いがしたいからです。普通級も支援級もなかなか理想どおりにはいかないけど、自分がどうしたいのか意見をきちんと伝えお互いの折り合いのつくところを話し合いの中でみつめていくことが、小さな一歩になるのかと思います。

次の進路は中学校です。本人の中では、だいぶ準備できているようです。先日、久しぶりにお会いした人から何年生になったとの質問に、もうすぐ中学生だよと答えていました。

言葉が少ない息子がそんな言葉知っているのかと驚きました。次を意識していることがわかった会話でした。まだまだ心配の尽きない息子がまた少し成長したなと思いました。



## 「障害児」の高校進学を実現する全国交流集会・プレ集会

(2011.9.19 浦和コミセン)

語ろう高校～希望するどの子も入れる高校をめざして～  
(報告)

来年埼玉で開催予定の全国交流集会に向けたプレ集会の報告です。埼玉県内の地域で活動している人やこれまでに高校入学運動に関わってきた人、北村小夜さんや東京・千葉・茨城からの参加もあり、70名近くが集まって集会室がいっぱいになりました。“どの子も”の高校入学運動が始まって最初の受験者である猪瀬良太さんの開会のあいさつ「集会をはじめます。はじめよ！」から始まりました。

### 【24年間をふり返って】

#### ① 猪瀬佳子代表のころ

<猪瀬>大西赤人さん(身体に障害、浦和高校を受験し落とされる)や浅井一美さん(全盲で、点字受験し入学)たちと違って、知的障害ということで、願書も受け付けず受験も出来ないかもしれないということで運動が始まった。中村さんとかが知的障害でも受験できると確認して、受験する！と強く思った。高校へとドアを開くということでたいへんだったが、創成期というか楽しい時期をすごした。今のほうがたいへんだらう。

<小沢>お久しぶりです。吉川高校に勤めていて、猪瀬さんとか中村さんとか、高校に入る最初の時に関わっていた。10年くらい前に異動して遠ざかってしまった。

<後藤>養護学校高等部3年まで行っていたが、2学期でやめて、豊岡高校を受験した。いまいち頑張りが必要なかったなという……孫が中3で悩んでいる状態です。

<高橋>吉川高校の生徒をやっていた。自分も分けられているんじゃないとか、自分のこととして扱えられていたので、運動に巻き込まれていった。(署名など行った。)

<増田>(成人した障害者たちも応援しよう)浦和高校の定時制を受験したが、(出身の越谷養護学校長が書いた文書の)情報公開したら、学校側にとっていいことばかり書いていて、本人の僕には不利なことばかり書かれていて、裁判をやった。

<池>高校に行ったのも10年以上も前で、桶川西高校を一応3年間で卒業できて、その後、お仕事とかいろいろなことを経験しました。

<藤崎>幸手商業の定時制を受験した。代読は県の人ややって、代筆を山下さんがやったけども、聞こえないようにさせられて、それで落ちた。うひゃひゃひゃ。

<野島>与野高校を受験した。武内創源(もとみ)さんと受験し二人ともだめということで、次の年もう一度受けた。養護学校を卒業したので商業科しか受験できなくて、社会人特別選考で面接だけをした。セーラー服が着たくて高校に入った。

<木暮>春日部高校を15年前に受験した。ワープロで受験した。40分かけて受験したのも今ではいい思い出。なかなか友人もできなかった。書道部だった。

#### ② 門坂代表のころ

<門坂>教育局の中では受験することに対する拒否感は薄くなり、理念も話し合えばわかる感じだった。息子の受験では推薦で落とされ、私立で落とされ、最後の最後の一般受験で狭山高校の全日制に受かった。2000年1月の「可能な限りその全員を入学許可候補者とする」や、2001年3月の「定員内不合格はあってはならない、受け入れられい学校に責任がある」など教育局が認めたのは大きかった。

<佐久間>受験の時期も猪瀬さんから門坂さんにまたがってしまった。(朝霞定時制に8年目に入学)入ったら急にいい高校になった。最初の1年はたいへんだったが、学校に行くのが好きで、ずいぶん本人ががんばって先生にも認めさせた。男の子はからかいながら仲間として認めてくれて意外とやさしい。皆勤賞をいただいた。成人式、卒業式には着物を着て出た。卒業後も文化祭に行っている。

<門坂豊>狭山高校を卒業した。はつかり麵の株式会社で働いていたが、不景気のためアルバイトになってしまった。今は就職活動をしている。

<門坂>補足すると、実質倒産で解雇、新しい経営者に相談したら、アルバイトとして継続できることに。仕事はなくなったが、チャンスももらい、あたたかい人間関係がある。高校時代けんかをし停学をくらい、一人前の経験もした。中学の時のボスが守ってくれて、強いいじめにはあうことがなかった。(それを知ったのは卒業式の日)

#### ③ 斉藤代表のころ

<斉藤>田舎の母が急死、父を引き取る、娘の脳腫瘍があり、目黒さんや山田さんが手伝ってくれた。目黒くんは2年間一緒に受験。山田さんも一緒に受験、浦和一女へ。上尾沼南高校全日の受験の時、クラスの友だち6人が待っていてくれた、先生が頼んだわけでもなく。その後は定時制を受験(蕨、大宮商業)し、5年目に入学。入ることも大事だが、出ることも大事、卒業に関してのいきさつが資料集に書いてあるので参考に。

<吉井真須美>もう21才になった。深く考えずに地域の小学校に入れたが、子どもたちに救われ、ここを出て行ったら息子にあたりまえの生活を与えられないと思った。

たいへんな思いをした分、地域の人に覚えてもらえた。あたりまえのように延長線上で高校を受験する気持ちになり、皆さんの力を借りて頑張ればなんとかなるだろうと思っていたが、甘い考えだった。息子が本当に高校に行きたいかどうか、はっきり言ってわからないが、こうなったら、高校に対する嫌がらせかなというように受験し続けている。

<吉井敏>周りの人たちが自然に理解する状況を作ることが重要。現在は教育局が相当学び、吉井英樹を入れたら全て受け入れなければならない、ガードがなくなったらたいへんとハードルが高くなっている。教育局の人は古い頭で経験がない。いかに理解してもらうか。親の心情や社会の必要性を教える仕組みを考えなくては。今年春の受験では代読代筆といっても形式的な受験。そのおかしさを

教えていかなければならない。

<六澤>5年前に不動ヶ岡誠和高校に入学した。福祉科の授業がはやくてたいへんだった。友だちにノートをみせてもらったりした。喘息もあり休みが多く、点数が取れなかった。知的の手帳を取り、先生がめんどろみしてくれてよかった。友だちもけっこういて、遠足も楽しく行けて、電車とかも付き添ってくれた。卒業後はくらしセンターべしみに。

タイムキーパー吉井英樹くんが音声の出る機器で「はじまりです」「おわりです」と鳴らして、みんなの笑いをとっていましたが、それでも話を終われない親たちの思いがあふれていました。続きの【来年の全校集会に向けて】北村小夜さんのお話など次号で。(どの子も地域の公立高校へ！埼玉連絡会ニュースより)



## お便り

## 全国交流集会は参加します

高校…楽しいらしいですよ。それも、かなり(^\_^)v……………

初めまして！1年位前から拝読しています。

障害のある子どもが地域の小中学校に行き、みんなと一緒に高校を受験して公立の高校に行くということの意味や意義…。

我が子に障害があるとわかって未だ3～4年しか経っていない私には、それがどういう意味を持つのか？それがどうもなかなか理解し難くて…

それで、こちらのブログを毎日読んで勉強するようになりました。以前は「うん。うん。」と自らを納得させながら読んでいました。が…おかげさまで、我が子が高校入学後、地域(=区内はもちろん隣接する市区や最寄り駅沿線)にどんどんと友達・先輩網を拡げていっているのを見ていて…管理人さんがこちらのブログで伝えておられることが、本当に身をもって感じられるようになりました！

「ああ、こういうことだったんだ！！」って、思って。時折、かつて同じ中学だった…支援学級から→支援学校高等部や支援学校分教室に進んだ障害のある友達たちから電話があります。彼らには、まだ親しく付き合える友達がいないのかな？もう入学そういうわけで普通学級・普通高校のありがたさを親子で身をもって感じています。

いつだったか全国連絡会のある先輩お母さんが「甘い言葉の裏には残酷なことが待ち構えているから」と私に教えてくださいましたが…それはこういうことだったんだ！と、今になって気付いた次第です。はい。

私はこれからは、分けられないことの「豊かさ」を…出逢う人(=障害があるお子さんの親御さんたち)、出逢う人に伝えていきたいと思っています。

これからも色々勉強させてください。既に今までにも、もう、本当にたくさん勉強させていただいております。ありがとうございます！

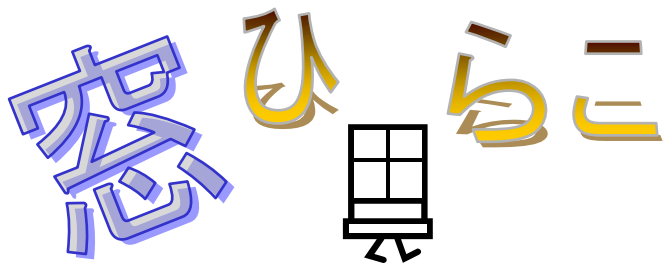
……………

先日の埼玉での集会…

残念ながら遠いので伺えませんでした、来年は必ず参加したいと思っています。後、半年も過ぎたというのに…

(他県より☆)

ブログ「共に学び・働くー「障害」というしがらみを編み直す」より転載



だれもが敵にみえたとき  
 じぶんをととも無力に感じたとき  
 なにもかもほうりだしたくなったとき  
 いそがしいとき いきがつまるとき

こころの窓をちょっとひらこう

**共に働く街を創るつどい2011  
 埼玉発信！障害者の就労と地域ネットワークを探る**

2011年12月11日(日) 10:00~12:00

会場：越谷市中央市民会館5階会議室

会費：500円(資料代含む) 手話通訳(予定)

パネラー：斎藤俊司さん(埼玉県就業支援課主幹)、竹城満博さん(東部障がい者就業・生活支援センター センター長)、千葉奈保子さん(越谷市障害者就労訓練施設しらこぼと主任)、長塩礼子さん(戸田わかき会(戸田市立福祉作業所 かがやき所長・Cafeこるぼ責任者))、山倉由美子さん(越谷市障害者就労支援センター 就労指導員)…アジェンダ順  
 コメンテーター：越谷市障害福祉課(依頼中)  
 コーディネーター：朝日雅也さん(埼玉県立大学保健医療福祉学部教授)  
 主催：NPO法人障害者の職場参加をすすめる会(代表・鈴木操)

**こしがや産業フェスタ2011**

11月26日(土)、27日(日)

10:00~16:00 越谷市総合体育館

商工業と農業の合同のお祭り。今年もNPO法人障害者の職場参加をすすめる会のブースで、昆布、チョコレート、マフラ

一ほかの販売やPRなど、にぎやかにやります。

**お手伝い募集!**

連絡先：世一緒 048-964-1819

鴻巣市障害者週間記念のつどい

**講演会「防災と障害者」**

お話：牧口一二さん

(ゆめ風基金代表理事)

12月3日午後1時~

会場：鴻巣市総合福祉センター

埼玉県鴻巣市箕田 4211-1 TEL 048-597-2100

参加費無料

**TOKOミニおしゃべり会**

(毎月1回)

気軽にお立ち寄りください

次回は

12月9日(金) 10:30~12:00

会場：生活ホーム・オエヴィス

越谷市恩間新田 232-3 TEL: 0489-75-1524

駆け込み寺として お茶のみ場として 情報を伝え合う場として さまざまな立場の人の出会う場として……

主催：わらじの会・どの子ども地域の学校へ・公立高校へ 東部地区懇談会

**わらじの会  
 みんな一緒にクリスマス**

12月23日(金)

会場・春日部市内(調整中)

参加費：500円 食べ物一品持ちより プログラム：立食パーティ。ゲーム、ダンス、バンド、手話の歌、獅子舞、プレゼント

主催：わらじの会

連絡先：デイケア・パタパタ 08-733-2743(FAX共)

お手伝いの方は、9:00 集合

当日の問い合わせは：090-2311-0712 へ。

**「就労支援」といってもさまざまなんです  
 就労支援センターガイダンス**

主催：越谷市障害者就労支援センター  
 TEL 048-967-2422

「就労支援」は「就職支援」だけではありません。また「雇用支援」だけではありません。「障害者の支援」だけでもありません。あなたは「支援を受ける」だけでなく「支援する」側にも立っています。

どなたでも参加できますが、予め電話でお申し込みください。毎月1回行っています。

次は 12月5日(月) 10:00~12:00

会場：越谷市産業雇用支援センター4F会議室  
 越谷市東越谷 1-5-6 (ハローワークの上)